

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こばんはうすさくら 浜北教室		
○保護者評価実施期間	令和8年1月5日	~	令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和8年1月5日	~	令和8年1月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月9日		

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画および専門的支援計画の作成において、保護者への丁寧な聞き取りと子ども本人のニーズ把握を重視している。	計画更新前には必ず面談を行い、保護者だけでなく子ども本人からの聞き取りも実施することで、具体性のある支援計画の作成を心掛けている。計画は児童発達支援管理責任者および専門的支援員が中心となって作成するが、日頃から職員間で子どもの様子を共有し、多様な視点での見立てができる体制を整えている。	現在実施している取り組みを継続しつつ、保護者や子どもが率直な思いを安心して伝えられる関係づくりをさらに進めしていく。また、これらの取り組みや考え方について職員にも丁寧に伝え、支援の質の向上につなげていく。
2	防災訓練は計画的に実施されており、その計画や実施状況について保護者にも周知を図っている。	防災訓練は、避難訓練を中心に震災・水害等を想定し、計画的に実施している。また、保護者との連携を強化するため、公式SNSを活用した連絡工程を加え、保護者にも訓練へ参加していただいている。	災害の突発性を踏まえ、職員が工夫しながら防災訓練を実施している。今後は訓練内容のバリエーションを増やし、より実践的で多様な訓練を計画的に行っていく。
3	日々の活動プログラムが固定化しないよう、職員同士でミーティングを重ねながら工夫し、多様な活動を実施している。	心理師や作業療法士、保育士が各自の専門性を活かした活動を行うとともに、子どもたちの遊びのリクエストも受け付け、活動の幅を広げられるよう工夫している。	ミーティングを今後も行いつつ、インターネット等からの情報収集や他事業所との横のつながりを大事にし、新しいプログラムを提供できるように努めていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者向けNo19「子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。」の設問に対し、【いいえ】が2票あった。	相談体制は整っており適切な対応が行われているが、周知方法や対応後の共有について、今後より一層の充実を図っていく必要がある。	全職員が初期対応を取れるように、対応手順や情報共有の統一を図り、より安心して相談できる体制づくりに努めていく。
2	保護者向けNo18「父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。」の設問に対し、【いいえ】が1票、「わからない」が7票あった。	就労している保護者が多く、父母会や保護者会等の開催時間の調整が難しく、参加が限られてしまう場合がある。	毎年、外部講師を招き、保護者を対象とした講演会を実施している。あわせて、子どもと一緒に保護者にも参加していただけるイベント等について、今後も検討していきたい。
3	従業員向けNo9「第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。」の設問に対し【いいえ】が4票あった。	評価を求める第三者機関が明確ではないため、どのように評価を求めたらいいかが不明といなっている。	明確な第三者による評価はないものの、相談支援事業所や各連携機関との関りが常にあるため、まずはそいった各機関からの評価を参考に、今後さらなる第三者機関を検討していきたい。